

## 安全安心の学校ニュース

### ●部活度の在り方に関して

大阪府に緊急事態宣言が発令されました。それを受けて、

**5月11日までの間に関しては(期間が延長になる可能性もございます)**

・すべての部活動は(公式試合・練習試合・練習)、中止となります。

今後対応が変化する可能性もありますが、内容が変わった際には、この校長だより等でお知らせしますので、よろしくお願いします。

### ●5月号学校だより内の記事に関する訂正

・学校だよりの記事に中の本校創立記念日の日にちを4月26日と打ち間違っております。正しくは、4月21日です。ホームページ版はすでに訂正しておりますが、印刷したものが26日のままになっております。お詫びして訂正します。

### ●ゴールデンウィーク中の学校への連絡について

明日から5連休となります。この間、学校への連絡が取りにくくなります。万が一、生徒本人や各ご家庭の方々が新型コロナウイルスの濃厚接触者となったとか、熱や咳等の症状があつてPCR等の検査を受けたなどの状況がわかった場合は、5月6日に学校にご連絡ください。

### ●登下校時のマスク着用について

感染症対策の有効な手立てとしてマスク着用があげられています。反面、マスク着用による熱中症の心配もあります。個人差もあるので、明確には「いつからマスクは外して登校しても構いません」とは言いません。ただ、5月中頃までは、体調と相談しつつもできたらマスク着用での登下校を奨励します。また、生徒同士の距離が近くなっているケースも多く見られます。互いの健康保持のためにも、適切なディスタンスをお願いします。

## ●3年生修学旅行に関して

三年生の修学旅行に関して、どうなっていくのかご心配のことと思います。細かい部分は、業者と相談中ですが、決まってきた情報を発信いたします。

①行き先を、長崎方面から広島方面に変えます。(詳細は後日)

理由:バス移動が可能(不特定多数との接触を避ける)

長崎も広島も被爆地で、平和学習ができる

②日程を6月から9月に変えます。(詳細は後日)

理由:現在の感染者数の状況から判断して。

全国のワクチン接種が少しでも進んだ時期に変えた方が良いと判断して。

10月に予備日を設定できるので(それ以降は進路の関係で計画しにくい)

★先日、3年生の平和学習の授業を見せていただきました。その数日前に、

ラーニングルームからある映画の音声が聞こえてきました。私は、冒頭のその音声を聞いた瞬間、「この子を残して」の映画だと思いました。長崎の地で、自らが被ばくし、原爆症と闘いながら、たくさんの被爆者の治療を行い、平和のためにその記録を詳細に残された永井隆博士(加藤剛氏主演)の生涯を描いた映画です。

映画の後の作文の一部をここでご紹介します。

- たった一発でたくさんの人の命を奪えるような兵器を作る技術があるなら、たくさんの人を救えるものを作ってほしいと思った。戦争をして、土地や権利を持つとするのではなく、お互いの国が平等にできるようになればいいな、と思った。
- 戦争がおきただけでも辛いのに、原爆が落ちて家族が死んでしまい、生き残った人も放射能で苦しめられていたなんて、想像もできないくらい苦しかったと思いました。今まで一緒に生きていた人が突然いなくなったことを考えると、心が痛みました。
- 普段、家族と過ごせていることに感謝しないといけないと思った。家族を大切にしようと思った。
- お父さんの「戦争の相手が憎むことができないくらい愛せ」という言葉が自分の心にささりました。
- 一発の原子爆弾が一瞬で長崎の町を壊したことが怖かった。核爆弾によって熱風や光線などがおきたり、放射能の濃度が高くてなって危険な場所があったり、景色が変わってしまった町を見た人の事を思うと、心が痛くなった。死ぬ間際に「ありがとう」を伝えていたシーンが、心に残った。自分も最後に「ありがとう」を言える人になりたい。世界で唯一、被爆国である日本の国民として、後世に伝えて、誰もが悔やむ事実になりたい、と思う。そして核爆弾を0にしたいと思った。
- 自分が想像していたよりも原子爆弾の威力が強かったです。あんなすぐにものが壊れたり、人が大やけどしてしまうなんて本当に恐ろしいですね。今平和な時代に生きていられることにあらためて感謝しながら毎日を大切に生きていこうと再確認しました。身内がなくなってしまったシーンは「本当に自分があそこの立場にいたら」と考えたらとても恐ろしかったです。
- 私たちが、原爆が落ちてから何年もたった今でも、この記憶を受けついでいっていると考えると、この学習はとても大切だと思う。絶対に忘れてはいけないし、これから先、生まれてくる子たちにも、つなげていかないといけないと思った。
- 「外にある傷は見えるけれど、心の傷は見えない。」という言葉が心に刺さりました。人はどうやっても相手の心は見えないけど、その人に寄り添う

ことで、分かろうとすることで、何か伝わってくるものはあると思います。だからそういう人になりたいです。戦争で親や子ども、兄弟をなくしたツラさは言葉では表せないほどで、一生消えないと思います。そんな思いをさせる戦争がもう絶対に起こらないように、戦争の怖さ、ツラさ、悲しみを未来に伝え続けていかなければいけないと思います。もう誰もこの思いをすることがないように、平和が続くように願っています。

・永井博士が亡くなる前に、誠一にいった、「敵を愛しなさい。愛し、愛し、愛し抜いて、こちらを憎むすきがないほど愛しなさい。」という言葉、「戦争絶対反対を叫びとおしてくれ。」という言葉も受け継いでいって、戦争を二度とやらない世界になってほしいなと思いました。最後の歌「人間を返せ」「母を返せ」の歌とメロディーは今でも頭から離れません。

**日本人の大半が戦争を知らない世代となった今、だからこそ戦争の悲惨さを知り、平和の大切さを受け継いでいく必要があります。永井博士が自らのお子さんにどんな思いで平和の大切さを語られたのか、しっかりと学んで欲しいと思います。感想文の中には、「戦争」から「家族」に目を向けたものもありました。世界の人を愛するには、まずは家族を大事にすることから。平和の第一歩は家族愛にあることに気が付いたようですね。3年生の心の成長に感動しこの先益々伸びていくことに期待します。**

そしてその映画のあと私が見せていただいたのが、各クラスでの平和学習の授業でした。私がうれしかったのは、2クラスの授業に学年のすべての先生が集まって、担任の先生と一緒に学年みんなで学んでいたことでした。この学習に対する学年の先生方の並々ならぬ意気込みを感じました。そして、学んでいる生徒のみなさんも、誰もが一生懸命でした。

**広島に修学旅行に行くことの意味**

三年生のみなさんは今修学旅行の取り組みに大忙しです。今年の3年生が、修学旅行で訪れる土地は、広島市です。

ここは、日本人にとっては忘れてはならない土地の一つです。それは、**第二次世界大戦の終盤、昭和20年8月6日午前8時15分に原爆が投下された街**だからです。日本で、というより世界で原爆が実際に人の上に投下されたのは、この広島と、**同じ年の8月9日午前11時02分の長崎だけ**です。つまり、日本人は**世界中で唯一戦争の中で原爆の被害を受けた国民**なのです。

被爆者の方々の中には、被爆したときの自分の苦しかった体験を語って下さる方も少なくありません。「**70年以上たった今でもその日の恐ろしい光景は忘れられずに夢にも出てきてうなされます。**」とおっしゃる方もおられます。また、自分や自分の家族が生きること必死で、まわりの人が助けを求める声にこたえきれずに、**やむをえず見捨てて逃げてしまったこと**を、**70年以上たった今も気にやんでおられるかた**もいらっしゃいます。夢も打ち砕かれ、豊かではないものの幸せだった生活もボロボロに壊され、忘れたくとも忘れられないことをたくさん抱えて苦勞して生きてこられました。また、被爆時の自分のやけどの跡など、絶対に人には見られたくない傷を負った人もいらっしゃいます。それらの**苦しかった体験や傷ついた自分の身体の写真などを、ほかの人に見せたい聞かせたいするのはものすごく辛いこと**であることは、想像できます。ではなぜ被爆者の方は自分の辛かった話を語り、被害にあった写真を見せるのでしょうか。それは、他の人に戦争の恐ろしさを心から実感してもらい、**二度と同じような恐ろしい目にあう人が出ないようにしてほしいから**なのです。

戦争の被害は被害にあってはじめてその恐ろしさを実感できます。地震や台風などの自然災害と違って、人の手で起こしてしまうのが戦争です。自然災害はどうしても部分はありますが、**人が起こす戦争は、人の知恵と良心(正しい心)で**

**どうにか防ぎたい**ものです。

30年ほど前、広島で佐伯さんという被爆者の方と出会いました。**被爆の後遺症**で体調は常に良くない中で、**佐伯さんは、毎日、ほうきを持って、平和公園の掃除をされておられました。**広島の平和公園も長崎の平和公園も爆心地にあります。爆心地とは、原爆が投下されたほぼ真下です。その場所にいた人は、ほぼ即死状態で、どこのだれかさえ分からない遺体も多かったと聞きます。平和公園の下には、たくさんの葬りきれなかった遺体があるのです。**佐伯さんが平和公園の掃除をされておられるのは、そこがお墓だと思っておられるから**なのです。

**三年生のみなさんが平和のフィールドワークをする場所はそういう土地なのです。亡くなった方の頭の上を歩かせていただいと**いうことを忘れずに、**心をこめて歩いてほしいです。**また、資料館の写真も被爆者の方のそういう思いのこもった写真です。**自分の子どもや孫の世代も含め二度とこういう被害を生まないためにも、目をそむけないでしっかりと見てほしいです。**